当たり前の大切さ

佐世保市立早岐中学校３年　　金丸　かすみ

毎日のように通っている学校。わたしたちにとって当たり前のことが当たり前ではない国があります。

ある日、紛争の激しい地域について取り上げられた番組を見たときに初めて見る現実に衝撃を受けました。それは戦闘機が飛び回る空の下、短い鉛筆を持ち屋外の教室の中で勉強をしている子供たちの姿でした。よく見るとその子供たちが見ている教科書はぼろぼろに使い古されています。学年が上がるたび上級生から譲り受けているそうで、二人で一つの教科書を見るということも少なくありません。けれどその顔は楽しそうで、そして真剣な目つきをして授業を受けています。勉強をできることが嬉しくてたまらない。そんな表情に見えました。このような現状になっているのは国の資金の多くが軍事費に回され、教育につぎ込めるお金が圧倒的に少ないのです。

それでは日本はどうでしょうか。小中学校は義務教育として国の税金で無償で通うことができます。わたしたちは、どこかの誰かが納めている税金によって学校に通うことができます。充実した環境で安心して勉強をすることができるのは幸せなことなのです。

また日本では進級すると新しい教科書が配られますが、その全ての教科書の裏表紙にはこのような文が書かれています。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」この文を見るたび新しい教科書を使うことができてありがたいなと思います。しかし周りでは床に放っておいたり、落書きをしたりする光景を見ることがあります。そういった教科書を大切に使わないという行為は税金を大切にしていないと同時に国からの期待に応えようとしていないということになるのではないでしょうか。世界では日本のように教科書が無償給与される国は数少なく、欧米ではレンタル中心になっています。また、レンタル代を安くするために譲ってもらったり中古を買ったりするそうです。レンタルされる教科書は使い回されるため丈夫に作られ、普段わたしたちが使っているものより重さが増し、書き込むこともできません。新品の教科書が無償で手許に届くということは当たり前ではないのです。

もし税金がなかったら勉強をするどころか生活すらできなくなります。税金を納めた人のおかげで誰かが支えられ、またその支えられた人が他の誰かを支える。そんな税金の循環で生活が成り立っていることを自覚しなければなりません。今のわたしには多くの税金を納めることはできませんが、当たり前に毎日を過ごすことができる感謝の気持ちを消費税に込めて納めたいです。税金を納め支えてくれている人たちに少しでも恩返しできるように。ひとりでも多くの人が税金によって幸せになることを願い、本当の当たり前とは何かを探し続けます。